

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 辞書で漢字のソウカクスウを調べる。
- 2 ミサイルのハツシヤ実験をくり返す。
- 3 よくない状況をダハする。
- 4 サンチョウウに到達する。
- 5 果実がよく熟れている。
- 6 過去の出来事を忠実に再現する。
- 7 事件のことを警察に供述する。
- 8 大王として君臨する。

問二 次の四字熟語の空欄□に入る漢数字を答えなさい。また、その四字熟語の意味をあとのア～エからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

- 1 一刻□金      2 七転□倒      3 □刀両断      4 □律背反

ア ものを二つに切ること。また、そのように物事を思い切って決定したり処理したりすること。

イ ほんのわずかな時間にも非常に大きな価値があるということ。

ウ 痛みや苦しみでもだえ苦しむこと。

エ 根拠があつて、理屈が通つていことがらが、たがいに矛盾し合うこと。

## 二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

スナイパーは忍び足で標的の背後に忍び込む。放たれた弾は、音もなく標的に命中する。サイレント銃のごとく標的を射止めたこの弾こそ、くつき虫やひつき虫の名で親しまれているオナモミの実である。友だちと投げ合ったり、気づかれぬように人の背中に投げつけたわんぱく時代をなつかしく思い出される方も少なくないだろう。草花遊びという女の子のイメージが強いが、オナモミだけは別である。

「ア」

離脱がカンタンなこともオナモミの魅力の一つだろう。オナモミの実は取りはずして何度でも遊ぶことができる。集中砲火を浴びてたくさん投げつけられた実は、それがそのまま武器になるから、反撃に使うことができる。この離脱がカンタンな秘密はトゲにある。トゲの先端がカギ状に曲がっていて、衣服の繊維にからみつくようになっていた。じつは植物の実のもつこの構造が、背もたれやおむつのカバーに使われるマジックテープの発明のヒントになった。虫眼鏡でよく見ると、オナモミのトゲとマジックテープとはそっくりである。

「イ」

オナモミは雄なみである。「なもみ」は「ひっかかる」という意味の「なずむ」に由来する。I、ひっかかる男なのだ。ちなみにひっかかる女、雌なみも存在する。メナモミの種子も衣服につくが、あっさりとは離脱できるオナモミと違って、こちらのほうは種子がべたべたとまとわりついて離れにくいので注意が必要である。II 人間の場合は、離れ際があっさりしているのは女性のほうかもしれないが。

III、オナモミの実がひっかかるのは子どもたちを遊ばせるためではない。動物の体や人間の衣服について種子を遠くへ運んでもらうためである。他人の衣服に勝手に投げつける子どもたちの遊びも手伝って、オナモミはみごとに散布されていく。

「ウ」

「先ずれば人を制す」という諺がある。早く芽を出せば、ほかの植物よりも有利に生長することができるだろう。IV 反対に「急いては事を仕損じる」という諺もある。状況もわからないまま早く芽を出すのは危険すぎる。それなら逆に遅れて芽を出すべきか。「先ずれば人を制す」か、それとも「急いては事を仕損じる」か。あなたなら、どちらが有利だとお考えだろうか。答えはオナモミの実のなかにある。

とげとげしたオナモミの実<sup>だれ</sup>は誰もが知っていても、この実を割ってみたことがある人は少ないだろう。オナモミの実を割ってみると、中には二つの種子が入っている。

「エ」

そもそもどちらが有利か、という質問自体がナンセンスである。どちらが有利かは、そのときの状況によって変わる。ましてや、状況のわからない見知らぬ土地では、どちらが有利かは結果論でしかないのだ。どちらを選んでもリスクがあるならば、どちらも選ぶ両<sup>ゆい</sup>かけ戦略を選ぶことが唯一<sup>ゆい</sup>の正解である。

だから、オナモミの二つの種子は違った戦略を分担しているのだ。やや大きい種子は先発隊である。春になるが早いか芽を出す。まさに「X」だ。ところが、先発隊には、どんな危険が待ちかまえているかわからない。除草剤<sup>じよそつせい</sup>がまかれたり、耕<sup>か</sup>されたりして全滅してしまう可能性もある。「Y」状況に陥<sup>おち</sup>ったときに備えて、遅れて芽を出すのが後発隊のやや小さい種子だ。

「オ」

せっかちで、やるのが早い種子と、のんびりしていて、じっくりと事をなす種子。どちらが優秀<sup>ゆうしゆう</sup>で、どちらが劣<sup>おと</sup>っているというのではない、性格の異なる二つの種子があるからこそ、どんな環境<sup>かんげん</sup>でも克服<sup>こくふく</sup>できるのだ。限<sup>かぎ</sup>られた価値基準<sup>かちきん</sup>で優劣<sup>ゆうれつ</sup>をはかることはできないのである。

すべての子どもたちは、みんな個性豊かに伸び伸びと育<sup>の</sup>ってほしい。子どもたちに投げられたオナモミの実は、そんなメッセージを内に秘<sup>ひ</sup>めているのである。

(稲垣栄洋「身近な雑草の愉快な生きかた」より)

\*オナモミ キク科オナモミ属の一年草。高さ約一メートル。トゲのある果実が衣服につきやすい。

問一 —— 部①②③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 本文中 I } IV にあてはまる語句として適切なものを、次のア～エから選んで記号で答えなさい。

ア なぜなら    イ つまりは    ウ もちろん    エ しかし    オ もっとも

問三 次の一文は、本文中「ア」}「オ」のどこに入れるのが適当ですか。「ア」}「オ」から一つ選んで記号で答えなさい。

こうして見知らぬ土地への移動をみごとに果たしたオナモミは、重大な決断をしなければならぬ。それは芽を出すタイミングである。

問四 ——部A「オナモミの実は取りはずして何度でも遊ぶことができる」とありますが、なぜこのようなことが可能なのですか。その理由が書かれた一文を三十九字で探し、最初と最後の五字を書きなさい。(字数に句読点をくくります)

問五 ——部B「どちらが有利だとお考えだろうか」とありますが、この問いの答えとしてまとまっている一文を、文中より二十四字でぬき出しなさい。(字数に句読点をくくります)



問八 本文の内容を説明したものとして適切でないものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア オナモミの実には二つの種子があり、どちらも違う役割がある。
- イ オナモミの実は、ひっかいたり外したりして遊べるので、子どもたちに人気がある。
- ウ 「雌なもみ」は、オナモミよりもべたべたまとわりつくので注意が必要だ。
- エ 早く芽を出すことは、ほかの植物よりも有利に生長できるので、何よりも重要だ。

三

次の文章は、藤岡陽子『金の角持つ子どもたち』の一節です。戸田俊介は五歳から続けていたサッカースクールをやめて、志望する難関中学校合格を目指して塾に通い始めた。他の受験生よりも入塾が遅かった俊介は、夏休みに行われる夏合宿で上位グループに入れたものの、その中でも最下位のクラスに属していた。合宿二日目に行われた全クラス共通テストで手ごたえが感じられなかった俊介は少しでも遅れを取り戻そうと、就寝までの時間も勉強するために教室へとやってきていた。以下はそれに続く文章です。読んであとの問いに答えなさい。

三〇二号室のみんなは、いま一日のうちで一番ゆったりとした時間を過ごしている。ポテチやチョコを食べながら布団の上でごろごろしているはずだ。でも俊介は今日のテストが思ったよりできなかったの、その輪に加わることはしなかった。テキストを開き、テストでできなかったのと同じ問題を探す。授業では理解したつもりでいたのに、本番では頭の中がこんがらがって、答えられなかった。

「この問題はまずダイアグラムを書いておく……と。縦軸が距離、横軸は時間。ただのグラフじゃなくて、上辺も書いておく。ダイアグラムは長方形の右の辺がないやつで……」

口の中で解放の手順を呟き、ノートの上半分を使って線を引いていく。左端の原点から横に長めの線を一本。原点から縦に少し短めのを一本。横線に平行な上辺も書き入れる。でもここからがよくわからない。シャーペンを持つ手が止まってしまう。

線を引いては、また消しゴムで消す。それをしばらく繰り返していると、

「俊介、そろそろ部屋に戻れよ。就寝時間だぞ」

と背後から加地先生の声が聞こえてきた。このわずかな時間に風呂に入ってきたのか、髪は濡れてぺしゃんこだ。

「どした、そんな死にそうな顔して」

「ダイアグラムの書き方が……わかんなくて」

「なんだ、そんなことか」

意外にも優しい声で言われ、よけいに落ち込む。どうして今日習ったばかりなのにできないのだろう。

「じゃあこの問題だけ一緒にやるか」

加地先生が小さく笑いながら隣の席に座り、俊介のペンケースからシャーペンを取り出す。

「俊介、この問題をぱっと読んで、一郎と花子、どっちが単純な動きをしてると思う？」

「……花子さん？」

「だよな。花子はずっとマイペースだよな。人がどういう動きをしようとも気にしない、そういう性格の女子なんだろうな。じゃあまず原点から、花子の動きを書き入れてみようか」

加地先生に導かれ、俊介は手に握りしめていたシャーペンを動かした。加地先生が隣で見ていると、自分ではどうしても引けなかった線がすんなりとグラフに書き入れられる。勉強はテコの原理に似ている。ちよっとしたコツがわかると、カンタンに動く。自分で押してもびくともしない重い岩が、先生が少し手を貸してくれると、すうっと動いたりする。このすうつが気持ちよくて、塾に通い出してから勉強の本当の楽しさがわかった気がしていた。

「よし、ダイヤグラムは書けてる。ちゃんと理解したな？ あとは、いまわかってる数値を書き入れていく作業だ。問題文からなにがわかる？」

ダイヤグラムに数値を書き込んでいくと、図からいろいろな情報が頭の中に入ってくる。一郎と花子の動きが見えてくると、そこからはいつもやっている速さの問題だった。

「あ、そっか」

正解を見つけた時の心地よい痺れが頭の中に拡がっていく。暗闇に小さな光を見つけ、その光がどんどん大きくなっていくような感覚だ。トンネルの中から外に出ていく開放感が、俊介の胸を高ぶらせた。シャーペンを握り直し、俊介はノートの余白を使って式の計算を始める。ここまできたら答えが出たも同然。あとはいかに早く正確に計算式を解くかだ。シャーペンを持つ手の熱さを感じながら計算式を解き終えると、

「正解！」

加地先生が大きな赤マルをつけてくれた。ボールペンの先が紙の上を滑る音が嬉しくて、目の奥にじわりと熱いものが滲む。

「今日はここまでにして、部屋に戻って寝ろ。睡眠も大事だぞ」

「はい。ありがとうございます」

加地先生にお礼を言うてから教室を出ると、我慢できずに廊下を走った。嬉しい。できなかった問題がわかるようになった。たったそれだけのことなのに胸がいっぱいになる。

四月に入塾した時は、できないことだらけだったのだ。国語の文法も四字熟語もことわざも、初めて目にするものばかりで、一日十個のノルマを



課して記憶していった。社会は日本地図と四十七都道府県の県庁所在地を暗記するところからスタートし、理科は猿渡先生が渡してくれるプリントを毎日欠かさず埋めていった。でも算数だけは暗記では太刀打ちできなくて、基礎の計算から順にこつこつと積み上げてきたのだ。俊介にとっての受験勉強は、X をするのと同じだった。わかるところから順にピースを埋め、できたところからさらに拡げていく。

満たされた気分です〇二号室に戻るとすでに電気は消えていて、オレンジ色の豆電球だけがほんのりと灯っていた。初日は消灯時間の十一時を回ってもみんな少しは起きていたが、二日目の夜にはしゃいでいるやつはいない。肩から下がっていたカバンを部屋の入口のところにそっと置き、俊介は足音をさせないように自分の布団に潜り込んだ。

問一 部①～④の本文中の意味として適切なものを、それぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① すんなりと

ア 素早く即座に      イ 丁寧できれいに      ウ 少し乱暴に力強く      エ あっさりとスムーズに

② 胸がいっぱいになる

ア 満足感で満たされる      イ 心苦しさに打ちのめされる      ウ 懐かしい気持ちになる      エ 愛しい気持ちが生まれてくる

③ 太刀打ちできなくて

ア 丸暗記ができない      イ 計算することができない      ウ 正解を導くことができない      エ 図形が書けない

④ ほんのりと

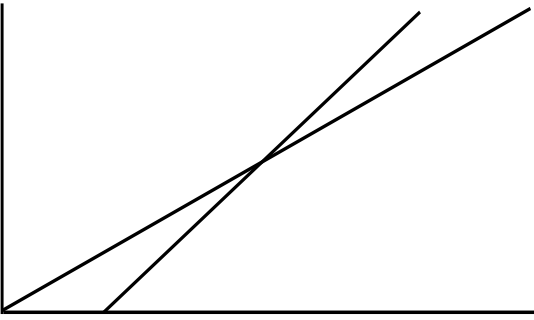
ア うっすらと少しだけ      イ はっきりと明確に      ウ うす味で上品に      エ ふわふわと浮かんでいるように

問二 空欄 X に入る語句として最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

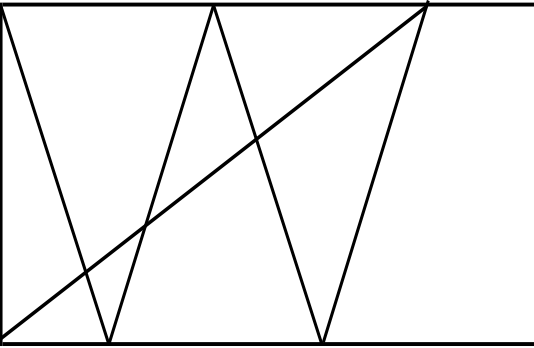
- ア 抜け道のわからない迷路
- イ 見本のないジグソーパズル
- ウ ヒントのないクロスワードゲーム
- エ 味方のいないロールプレイングゲーム

問三 — 部A「ダイヤグラム」とありますが、ダイヤグラムを表したものととして適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

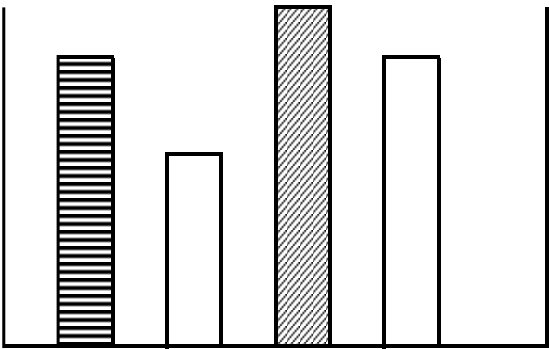
ア



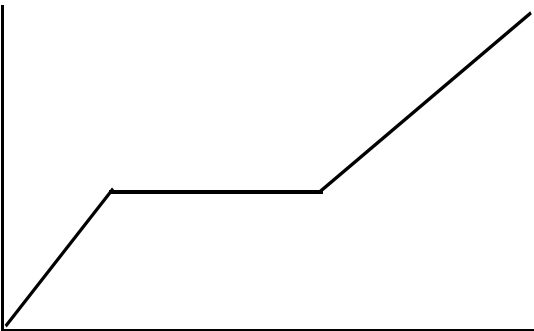
イ



ウ



エ



問四 — 部B「少し短めの」のあとには省略された語句があると考えられます。省略された語句を本文中よりぬき出して答えなさい。

問五 — 部C「よけいに落ち込む」とありますが、それはなぜだと考えられますか。次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 問題が解けないうえに、そんな問題もできないのかという意味の言葉をかけられて、先生に馬鹿にされたように感じたから。
- イ 問題が解けないうえに、俊介がその問題をできないことが意外なことで、先生は失望したのではないかと感じたから。
- ウ 問題が解けないうえに、そんな問題もできない俊介を傷つけないように先生が優しい口調を使ったと感じられたから。
- エ 問題が解けないのだが、素直にできないことを認めず強がって解けたふりをしたために、事態を複雑にしてしまったから。

問六 — 部D「勉強の本当の楽しさ」とありますが、本文中ではこの「楽しさ」を他のものにとえて表現しています。「楽しさ」はどのような感覚だと表現されているのでしょうか、四十五字以内で解答欄にあうように二つ答えなさい。

四十五字以内  
ような感覚

四十五字以内  
ような感覚

問七 本文中の「だらけ」と同じ用法の「だらけ」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を

利用しただけの解答は不正解とします。